

第1学年C組 国語科学習指導案

令和4年7月2日
授業者：田淵 靖子
場所：1年C組教室

1 単元名 耳を澄ます ～情報以前の情報の獲得を目指して～

2 単元観

本単元は、学習指導要領A「話すこと・聞くこと」の「エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること」をねらいとして構成した単元である。

本単元を構成したきっかけは、「行間を読む」力を身につけさせたいと考えたからである。「行間を読む」とは、隠れた意味や意図を読み取ることだが、具体的には、書かれている内容をそのまま受け止め、理解するだけでなく、何を伝えようとしているのか、訴えようとしているのかを、書かれている内容から想像して汲み取っていくことを指している。これは文字言語の文章だけでなく、学習や生活の中の会話や話し合いなどの音声を中心の言語でも同じだと考える。生徒たちはこの先見知らぬ人や外国人と出会う機会も多くなり、より多様化する社会を生きていくこととなる。様々な人と意思疎通を図るうえで、相手の話に耳を傾けることは欠かすことのできないコミュニケーションスキルである。相手がどのような状態にあるのか、どのような気持ちなのか、どのようなメッセージを受け取るのか、話者の表情や言動などから目に見えない情報を感じ取ったり、聞こえない音を推察しながら聞くためにも、様々な音声情報が行き交う日常生活の中で受け流されてしまいがちな音声中に耳を澄ませたり、細部にまで耳を澄ませたりするような「きく」力が必要だと考える。このように「行間を聞き取る」ことで、話者の心情や本当に伝えたいことをより正確に、豊かに理解することにつなげたいと考えている。この「きく」力は、すべての学習活動や日常生活の基盤となる大切な力であり、ひいてはその場で瞬時に「空気を読む」、「忖度する」、「状況を判断する」ということにもつながると考えられる。

本学年の生徒は、明るく活発で、授業中も積極的に意見を交わすことを楽しんでいる生徒が多い。学習意欲も高く、難しい学習課題でも「まずはやってみよう。」と前向きに捉え、間違えてもその間違いを楽しみ、最適解に向けて深く考え、試行錯誤しようとする生徒の多い学年である。反面、自分の意見や伝えたいことを一生懸命に伝えるあまり、相手が話しているところにかぶせて話をしてしまったり、話が終わる前に口を挟んでしまったりと、相手の話を「きく」ことへの意識は低いように感じられる。授業の最初に「聞く」と「聴く」の違いについて確認し、「聞く」には自然ときこえてくる、BGMと同じであり、「聴く」は意識してきくことだと確認し合ったが、普段の先生の話はどちらで聞いているのか問うたところ、「聞く」だと答えた生徒は全体の約7割を占めていた。また、人の話を聞いておらず失敗した経験があると答えた生徒はほとんどであった。人間の知覚の約8割は視覚からの情報とされており、聴覚からの情報は約1割だと言われている中で、生徒を取り巻く環境を見ても、テレビやインターネット、SNSなど様々な視覚情報に溢れた生活があたりまえになっているが、情報で溢れば溢れるほど、情報が流れることはあたりまえのこととなり、意識されないまま消えてしまうことが多い。特に、「人の話を聞く」ことに代表されるような音声情報は無意識の中で受け流され、消え去ってしまっているように感じる。本単元を通して、主体的、能動的に「きく」力を身につけさせ、話を聞くことの大切さに気付く契機としたい。

指導にあたっては、生徒が授業に入りやすいよう、視覚資料を用いるところから始めた。「一秒の言葉」はSEIKOのCMであるが、「はじめまして」や「ありがとう」などの言葉が美しい映像と共に映し出されている。CMという身近な題材の中に文字情報もあるため、無音のCMにナレーションを付すという活動は親しみを持って取り組むことができていた。「一秒の言葉」から、無音の映

像、音声のみ、写真の順に段階を追って情報を絞っていくことにより、少しずつ動き（流れ）のあるものから動き（流れ）のないものへと絞っていく。生徒が日常生活と関連付けて考えられるよう、運動会や教師の日常の様子を用いて考えさせた。それぞれの資料については正解があるわけではないので、当初はなかなか手の動かない生徒が多く、自信がないからか発表も少なかったが、回を重ねることにより慣れ、活発に意見を交わせるようになってきた。本時では、音を言語化することで、より深く聞くことを意識させたい。そのため、導入でわかりやすい音声を用い、少しずつ日常の音声へと近づけていく。本授業後は、自分が撮ってきた「音を感じる一枚」から聞こえない音を聞き取り、詩を創作し、教科書の「詩の心」の鑑賞を行う。詩の創作を通して、写真を撮ってきたときよりも細部にまで関心が行き届いていること、表現の幅が広がっていることに気付かせ、詩の鑑賞にもつなげたい。

3 単元目標 ～学習活動の中のやりくり～

- 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1) ウ
- 目的や場面に応じて。日常生活の中から話題を集め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 [思考力、判断力、表現力等] A (1) ア
- 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] A (1) エ
- 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] A (1) オ
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を集め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ア

4 本単元における言語活動

音声情報を言語化する。(関連：[思考力、判断力、表現力等] A (1) オ)

5 単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、話や文章の中で遣うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 (A (1) エ)	・積極的に情報収集をし、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。

6 学習計画 (全6時間)

第1次 「きく」とは

日常生活を思い出し、「聞く」と「聴く」の違いを確認しよう

第2次 耳を澄ます

- (1) 「一秒の言葉 (CM)」を例にナレーションを付す
- (2) 身の回りの映像 (無音) を言語化する
- (3) 身の回りの音を言語化する (本時)
- (4) 写真を言語化し、詩を創作する

第3次

教科書の詩を鑑賞する

7 本時の学習について

(1) 本時目標

身の回りの音を聞き言語化することを通して、日常生活の中の音が重層的になっていることに気づき、細部にまで関心を持って聴くことができる。

(2) 期待される生徒の様相

- A 流れる音声について背景を考え、様々な角度から言語化し、伝え合うことができる。相手の意見を受け止め、さらに深化させるような意見を述べている。
- B 流れる音声について背景を考え、言語化し、伝え合うことができる。相手の意見を受け止め、意見を述べている。
- C 流れる音声について背景を考え、言語化することができる。相手の意見を受け止め、背景を考える上での視点を広げている。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個またはグループへの支援 ※評価)

学習活動	教師の支援・意図・評価
1 導入の音声を聞く ① 卓球のラリー音 ② 野菜を切る音	○生徒が考えやすいよう、聞き取りやすい音声から聞かせていく。
2 「東京駅の喧騒」の音声を聞き、考える	○なるべくたくさんの音に気付けるよう、個人で考えた後、グループで共有する。 ○「○個以上探そう」といった具体的な目標を示す。また、「足音」だけでなく、どのような足音なのかも想像させるよう仕向ける。 ◆個人思考からグループで共有することで、様々な音が聞こえていることに気付かせる。 ◇グループで確認した後、再度同じ音声を聞かせる。 ○誰も聞こえていない音を見つけるよう伝える。 ◇全体で確認する。 ◇再度、個人で聞かせてワークシートに書かせる。 ○この音声のストーリーを考えさせる。
3 次時の確認をする	○次時は写真から音声を考えることを伝える。
4 本時の授業の振り返りをする	○「耳を澄ます」ことについて日常生活と関連付けて書かせる。